



坂下康子

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡4-1-8-900

022-257-4525
FAX 022-257-5523

Member of a prefectural assembly yasuko sakashita activity report

より寛容で、暮らしやすい社会に

みなさま、お元気でしょうか。

圧倒的な数のおごりで、独断専行の政治が続いてきた結果、森友、加計問題では多くの嘘が発覚しました。また、厚生労働省のデータや防衛省の日報隠しなど、マスコミに政府の不祥事が取り上げられない日がありません。政治の嘘は絶対に認めません。私たちの税金が不当に使われているのですから。

私は、一地方議員として、宮城県民の暮らしを支え、嘘の無い、県民を裏切らない県政に、愚直に活動していきます。

新年度の宮城県の予算では、未だ改善しない被災者の生活を支える政策、性暴力被害者の救済やエネルギー政策、宮城を元気にするベガルタ仙台について質問しました。

現場の声が問題解決の第一歩です。皆様の声を是非お聞かせください。



○1959年宮城県石巻市生まれ 宮城県石巻女子高等学校、宮城学院女子短期大学卒
○会社勤めの後、東南アジア、中南米を旅する。国会で衆議員秘書を務める。
○1991年県議初当選（宮城野区）現在7期目。行政書士。

- 在宅被災者に速やかな救いの手を
- 心のケアセンターの維持と充実を
- 性暴力被害者の支援体制を進めて

- ベガルタ仙台にもっと情熱を
- 再生可能エネルギー・風力発電に力を入れて

3月議会
予算について質問
しました



ベガルタ仙台をもっと元気に

ベガルタ仙台、低迷からの脱却と飛躍を願い、宮城県が株主としてやれることはないのか、質問しました。

「東北にプロスポーツチームを！」を合言葉に、宮城県が今のベガルタ仙台誘致に動き、当時中野正志県議が「支援する県議の会」を立ち上げました。以来、事務局長を拝命し、ベガルタ仙台応援のための観戦ツアーを続け、支援の質問をしてきました。

会社の体質強化のために質問し、出資金の無償減資が実現したのですが、久々の質問です。

県は5百万円の予算

今年度、本県ではホームタウン協議会へ500万円を計上しています。

今年のベガルタ仙台は5位を目指して、開幕戦から2連勝しました。私も今後の活躍を大いに期待しています。一方で、一昨年、昨年とともに、主力の選手が他のチームに移籍となってしまうなど、今までの人事に、サポーターは怒り狂っていました。

低空飛行をどうする？

昨年、一昨年の2年間は、連続12位という低空飛行の成績が続く、観客動員数もここ何年かは1万5000人入ればいい方、という状況が続いています。



知事 「支援を続ける」

知事 ベガルタ仙台は5位を目指して、開幕戦から「2連勝、1引き分け」と健闘を続けていることは承知をしています。選手強化や観客増員などホームタウン協議会を通して支援を続けて参りたい。

復興はまだ終わらない（裏面へ）

河北新報3月17日号に坂下康子の質問が取り上げられました。一部抜粋します。

県議会を振り返って 持続的復興へ原点回帰を

3月7日の予算特別委員会での総括質疑。被災者の支援施設「宮城心のケアセンター」の支援に前向きな回答を求めた沿岸部選出の議員に対し、知事は国の支援が無くても県で独自に事業を続ける考えを明らかにした。議員は施設存続の不安からセンターを去る職員が後を絶たない現状を指摘し、被災地を支援する声なき声を県議が代弁し、村井知事が受け止めてほしいと訴えた。被災地を支援する声なき声を県議が代弁し、村井知事が受け止めてほしいと訴えた。被災地を支援する声なき声を県議が代弁し、村井知事が受け止めてほしいと訴えた。